



大阪ミナミ映画祭
(2009年10月17～24日)パンフ

大阪の食文化をアピール

佐藤 まずはお一人ずつ、現在のご活動についてご紹介いただきたいと思います。

小嶋 昨年(2009年)5月に開催された、『食博』についてご紹介します。『食博』とは、1985年の第1回から「宴」をテーマに、4年に一度大阪で開催している食の博覧会です。昨年で7回目を迎え、11日間で約64万人の来場がありました。催しを始めた理由については3つあります。大阪は「くいだおれのまち」といわれていますが、その核になるものが無いのでは?と思ったんですね。そこで催しを、ここで食の商いをさせてもらっている我々が主催することで、やはり大阪には「くいだおれ」の実体があったのだと知っていただきたかった。2つめは料理人の技能向上、3つめは海外との交流です。十数か国から出店があり、「食」を活用した観光プロモーションを推進する各都市との交流を通じて、大阪の魅力的な食文化をアピールできていると考えます。また、夏の大阪の夜空を彩る『なにわ淀川花火大会』は、今年で22回目を迎えます。昨年は56万人の観客が淀川河川敷を埋めました。この大会は17年間続いた『十三どんとこい祭り』を発展させたもので、私はこの祭りが始まった頃からかわり、現在は大会運営本部長を務めています。これだけ大規模のものを行政

に頼らず、すべて地域住民の力でやっているところは全国的にも珍しい。天神祭に並ぶ、夏の大阪の風物詩になってきた自負があります。



小嶋氏



食博覧会

ミナミから大阪の再生を目指す

山部 『ミナミまち育てネットワーク』の活動についてご紹介します。こ



山部氏

れは2008年12月に『ミナミまちづくりフォーラム(代表者:三和実業(株)松本孝氏)』と『ミナミ活性化委員会(代表者:(財)大阪21世紀協会堀井良殷氏)』の2つが統合しパワーアップしたもので、ミナミに関係する企業や大学、商店会など125団体が参加しています。活動の目的は「観光集客」と「文化振興」をテーマに、ミナミから大阪の再生を目指すものです。ミナミは関西国際空港と直結するなど立地も良く、さらには歌舞伎や文楽などの大阪の古き良き伝統が根づいています。また近年は、日本橋を中心に「アニメ村」などの新しい文化も育ってきています。そうした進取の気性に富んでいるものを育てながら、さらには「くいだおれのまち」にふさわしい豊富な食文化など、多種多様な文化をより高めるとともに、さらなる街の活性化に取り組んでいきます。昨年(2009年)は、難波八阪神社の船渡御、大阪ミナミ映画祭、シンポジウム、ジャズフェスティバル、CGアニメ祭りを開催しました。ジャズを核としたまち育てのプロジェクトは、経済産業省の平成21年度『広域・総合集客サービス支援事業』に採択されました。今後はジャズを中心としたイベントなどを、事業の大きな柱として育成していきたいと考えています。

『水都大阪』の今後の方向性

室井 昨年8～10月に開催した『水都大阪2009』では、来場者目標100万人に対して約190万人。参加者数も約7万

9千人ということで、かなり多くの方々に『水都大阪』の魅力を知っていただき、まちのブランドイメージが確立でき



室井氏

たのではないかと考えております。今後の方向性について、個人的な意見も踏まえながら述べたいと思います。第1に『水都大阪』の都市ブランドを定着させるための継続的な取り組みが必要であること。第2に、都市づくりに熱意を持つ市民の活力やネットワークを今後どう生かしていくか。それには仕組みづくりが大事だということで、市民が協働できるプラットフォームづくりを提案したいと思います。第3は、官民融合による都市再生の事業スキーム。つまり、官と民が一緒になって大阪を元気にするには、民はビジネスというスキームで頑張ります。企業が儲ければ税金を通して行政にもお金が入り、ひいては行政サービスや市民サービスも上がります。「都市再生を事業再生という観点から考えませんか」という提案です。本組織は2010年3月で解散しますが、来年度は新しい仕組みで継続していく議論が進んでおります。初仕事としてはまず、都市再生ビジョンを作ること。そのためにも、いま申しました3点について考えるべきだと思っています。

中之島公園を“市民の舞台”に

山崎 『水都大阪2009』では、『水辺の文化座』というイベントで全国から160人のアーティストに集まいただきました。これらアーティストの作品制作補助や関連イ



山崎氏



「水都大阪2009」中之島公園会場(バラ園)



有馬富士公園でのワークショップ例(林の道づくり)